

慶應義塾大学法学部 人文科学研究会

「娘役の描写は時代と共に変化したか -宝塚歌劇団創立 100 周年を機に考える」

法学部政治学科 4 年 前川萌

目次

1. はじめに
2. 宝塚歌劇団の歴史と創設者小林一三の想い
3. 娘役の歴史と役割
4. 娘役の描かれ方は変化したのか
 - 4-1 『私立探偵ケイレブ・ハント』
 - 4-2 『金色の砂漠』
 - 4-3 『はいからさんが通る』
 - 4-4 『エリザベート』と『I AM FROM AUSTRIA』
5. 結び

1章 はじめに

日本には2つの大きな劇団がある。その2つとは劇団四季と宝塚歌劇団である。今回は100年以上の歴史を誇る、女性のみ出演者で構成される宝塚歌劇団を取り上げる。

2010年よりフェミニズム運動の第4波が始まったと言われている。¹男女平等だけでなく、ダイバーシティ・インクルージョンという言葉の元、人種やセクシュアルマイノリティに対する運動も活発だ。2020年5月頃からはコロナ禍の中、アメリカからBlack Lives Matter運動が始まり、世界規模となった事が記憶に新しいだろう。そうした社会運動はエンターテインメント業界にも大きな影響をもたらしている。例えば、米国建国の父であるアレクサンダー・ハミルトンを白人ではない俳優リン・マニュエル・ミランダが演じ、2016年トニー賞を11部門で受賞した。また、ディズニープリンセスは実写化することで強い意志を持つ自立したヒロイン像にアップデートした。それらが高い評価を得たということはつまり、そうした様々な固定概念に対するアップデートが世界中の人々に受け入れられているということだ。

宝塚歌劇団は男役至上主義と言われ、男性が中心のストーリーが多く、「男らしさ」を追求していく為誇張された男性像が描かれている場合が多い。そしてそれを引き立てる娘役もまた、誇張された女性像が描かれている場合が多い。しかし、宝塚歌劇団のファンの大多数は女性だと言われている。2020年現在の社会的背景の中で、宝塚歌劇団は取り扱う作品や、娘役が演じる女性像、ヒロイン像をアップデートしているのか。この点を本論では、2010年から2020年までの10年間を2014年の宝塚歌劇団100周年の前後で比較することに

¹ 「フェミニズムの4つの波って何?」、漫画でわかるLGBTQ+/パレットトーク、note、参照2021年1月2日

よってして明らかにしたい。比較する対象の年を2014年の前後5年間とした理由は3点ある。1点目は、2014年が宝塚歌劇団100周年で、多くのトップスターが変わった年である事。2点目は、米国女優エマ・ワトソンがUN Women親善大使になった年である事。3点目は、2015年にディズニープリンセス実写化第一段の『シンデレラ』が公開され、その前年である事。以上のことから、2014年は宝塚歌劇内部も、エンターテインメント業界とフェミニズム運動も共に動き出した年であるからである。比較方法は、大劇場作品の内容や、時代設定、ヒロイン像、台詞、歌詞の比較により行う。

今まで娘役を主役にした研究は少なく、男役中心の研究が多い。娘役について述べられていたとしても、男役についての研究の一部として行われている場合が殆どだ。しかし、女性のみで作り上げる宝塚歌劇団の美しい世界観に娘役は必要不可欠である。娘役がいなければ男役は成り立たないし、娘役がいるから男役はより一層格好良く見える。そして何より、舞台の華となり、宝塚歌劇を煌びやかなステージにしているのは他でもない娘役である。その為、今回は娘役に焦点を当て、創立100周年を期に社会的背景を踏まえて、娘役の役割、ヒロインの描かれ方が変わったのか、そしてそれが今後の娘役人気上がるきっかけとなるかを検証する。

2章 宝塚歌劇団の歴史と創設者小林一三の想い

本題に入る前に宝塚歌劇団の歴史と、創設者について述べる。宝塚歌劇団は大正三年に幕を開けて以降、100年以上の歴史を誇り、今もなお国内外から人気を集める歌劇団である。創設者は小林一三である。明治41年、阪急電鉄の前身、箕面有馬電気軌道株式会社に転職した小林は、宝塚新温泉を創設した。その温泉客誘致イベント『婚礼博覧会』の余興として発足したのが宝塚少女歌劇だった。その頃の宝塚はかろうじて温泉地として知られていたに過ぎず、武庫川の岸边に小さな温泉小屋が設けられていた。大阪毎日新聞の援助のもと、慈善歌劇会を行った事で知名度が上がった一方で、当時舞台芸術への理解が世間一般になかったことや、女性だけの歌劇団だったこともあり、批判を浴びた。しかし、宝塚音楽学校における、小林一三の当初の方針は、宝塚音楽学校は女優養成所ではなく、「意外な花嫁学校」だとして、普通の女学校よりも規則正しい教育の場として正課を設け、女性としての常用と品性の向上を図るとしている。²一人前の女性を育成し、普通一般の生徒を標準として、女性としての幸福を守る結婚第一主義であった。そして、家庭の奥様となるにふさわしい芸術的教養を受け、「朗らかな明るい家庭」を作ることが大切だとした。³

宝塚歌劇団の主な特徴は3つある。1つ目は、通称「タカラジェンヌ」と呼ばれる舞台人

²津金沢總廣「宝塚音楽歌劇学校校長・小林一三」、『タカラヅカという夢-1914-2014-』、24頁

³ 前掲書、27頁

を養成する為の宝塚音楽学校を所有することである。宝塚音楽学校へは毎年約40人の15歳から18歳の生徒が入学し、その倍率は例年25倍前後と言われ、過去最高では48.2倍を記録している。2つ目は、劇団員全員が未婚の女性であることである。その為、男役と娘役が存在し、女性が男性を演じる点が他の劇団にはない最大の特徴である。そして3点目は兵庫県宝塚市に2つ、東京都千代田区に1つ専用劇場を持つことが挙げられる。宝塚大劇場と東京宝塚劇場では、ほぼ休みなく5つの組が交代で公演を行なっている。花組が宝塚で最も歴史の古い組だとされており、その誕生は1921年である。それ以降、月組、雪組、星組、宙組と順番に誕生した。最近では地方公演も積極的に行なっており、全国ツアーや、名古屋公演、博多公演なども行なっている。2002年以降はCS放送で「TAKARAZUKA SKY STAGE」という専門チャンネルも開設した。

以上のように、宝塚歌劇団は「清く、正しく、美しく」の精神のもと、創設当初からの誰もが楽しめる国民劇を目指し、健全かつ、どの世代の人が見ても楽しめるレビューやミュージカルを上演している日本を代表するエンターテインメント集団である。

3章 娘役の歴史と役割

宝塚歌劇団が夢の世界だと言われる所以は、「男役」にあると言われている。女性が男性を演じるからこそその美しさや、「男らしさ」を追求した仕草や立ち振る舞い、低い声などが魅力である。人気や知名度で見ても、圧倒的に男役の方が人気も高く、現役時代の知名度も、退団後の知名度も高い。大地真央(在団1973-1985)や真矢みき(在団1981-1998)、天海祐希(在団1987-1995)などを筆頭に、世間一般の人がイメージする宝塚歌劇団のOGも男役出身者が多いのではないだろうか。しかし、実際に在籍する男役と娘役の数は半々で、娘役もその夢の世界を作る上で、大きな役割を担う。

そもそも歌劇団創設時は、娘役をできることが大前提で、「男役」もできる人がいるという認識だった。現在は音楽学校受験時から男役を意識した短い髪の者と、娘役を意識した長い髪をお団子にまとめている者がおり、「男役10年」と言う言葉がある通り、その修行は音楽学校の2年間から始まる。しかし、少なくとも1985年までは男役と娘役を決めるのは音楽学校を卒業した後だった。⁴つまり、以前は音楽学校で、一人の女性の舞台人としての教育を受け、その後男役の適性があるとされた生徒は男役も演じると言う認識だった。実際、1950年代から60年代にかけて活躍した男役、淀かほる(在団1947-1966)もヒロインを演じたことがあり、他の男役スターも娘役を演じる機会が今よりずっと多かった。

宝塚創成期のスターは皆娘役だった。雲井浪子(在団1914-1919)、篠原浅茅(在団1913-1921)などが代条例である。また、1930年代以降のレビュー黄金期にブロマイドの売り上げ

⁴ 中本千晶『なぜ宝塚歌劇の男や右派カッコイイのか -観客を魅了する「男役」はこうして創られる-』、147頁

もまた、娘役の紅千鶴(在団 1923-1933)だったという。⁵では何故、娘役と男役の人気が逆転しまったのか。その要因はいくつか考えられるが、最大の要因はファン層の変化だ。現在宝塚ファンの9割が女性だと言われているが⁶、戦前、創成期のファンは男性も多かった。特に男子学生に熱心なファンが多かった。創成期に「和製の喜劇」を成功させ、その後パリのレビューをいち早く取り入れた宝塚は流行の最先端であり、高学歴な男子学生にとって宝塚歌劇観劇はハイカラな趣味だったのだろう。⁷現在の女性アイドルに男性ファンが、男性アイドルに女性ファンが多いのと同様に、やはり男性のファンが多かったことが娘役人気の最大の理由だった。しかし、1921年初演の『モン・パリ』以降、男子学生からの人気上昇した一方で、宝塚歌劇の作品の中で恋愛が絡む作品が増えた。恋愛が絡むと、男役役割の重みが増し、男役が魅せる場面も多くなる。このことから、男役人気が上がっていったのだ。そして、男役人気が高まったことにより、女性ファンも増えた。また、男性ファンが減ってしまったもう一つの大きな要因の一つに、第二次世界大戦がある。多くの男性が戦争で出陣し、たとえ出陣していなくても男性が観劇をすることへの批判もあった。実際に、旧制中学で観劇が禁止になった。⁸そして戦後は娯楽の種類も増え、男性に求められる役割も変わった。高度経済成長期に伴い、核家族化が進んだ事により、男性は仕事、女性は家事育児と家族内の分業化が進んだ。当時の男性は「猛烈サラリーマン」などと称される程働くことに必死で、優雅に舞台を楽しむ余裕も文化も無くなってしまった。⁹結果、今現在のようにファンの9割は女性と言われるようになった。

1970年代まで、主演娘役に求められた要素は「美貌」と「歌唱力」であり、舞台の主演を務められる程の実力、つまり一人でもステージの主役になれるようなプリマドンナの要素が求められた。その為、娘役主演の作品もあった。初風諄(在団 1961-1976)が主演した、『ラムール・ア・パリ』(1975)がその例である。しかし、1970年代以降は、娘役主演の作品は激減した。この作品以降、1985年の条はるき(在団 1970-1985)を皮切りに現在に到るまでの35年間で、春風ひとみ(在団 1979-1988)、風花舞(在団 1990-1999)、月影瞳(在団 1990-2002)、愛希れいか(在団 2009-2018)の5名の娘役が主演を務めたが、いずれも小劇場のパウホール公演である。女性が主人公だった最後の大劇場公演は『風と共に去りぬ』(1977)だとされている。しかし、歴代のヒロイン、スカーレットを演じたのは安奈淳(1965-1978)、汀夏子(1964-1980)、一路真輝(1982-1996)と、いずれも男役である。

では、現在の娘役に求められている役割とは何か。それは、男役に寄り添い、男役を立てる「相手役」としての役割である。トップ「コンビ」人気も凄まじく、トップコンビに愛称が付けられ、トップ娘役はファンの間で「嫁」と呼ばれるようになった。「ちぎみゆ」と呼

⁵ 前掲書、151頁

⁶ 前掲書、149頁

⁷ 前掲書、150頁

⁸ 前掲書、151頁

⁹ 前掲書、151頁

ばれた、雪組の元トップコンビ、早霧せいな(在団 2001-2017)と咲妃みゆ(在団 2010-2017)が「トップコンビ売り」に成功した近年最大の例である。この二人は「平成のゴールデンコンビ」と謳われ、¹⁰トップ就任後の大劇場主演作品が5作連続で客席稼働率100%超えを達成し、これは宝塚史上初の記録となった。¹¹トップコンビの人事発表が行われる度に、Twitterなどでも「嫁問題」などの言葉を目にする。かつてのプリマドンナではなく、男役の「嫁」として、あくまでも男役トップスターが中心となるトップコンビの「一部」としての役割を重要視されるようになったのである。一人で輝いたり、男役よりも前に出ることがあったりしてはいけない。あくまで、男役が輝けるように寄り添い、二人が並んだ時に素敵に見えるように女性よりも「女性らしく」振る舞うのが娘役である。男役人気上昇以降、トップスターを除き、「スター」という概念のもと、その中に男役も娘役もいるというスタンスだった。しかし、2010年以降、生徒年鑑である『宝塚おとめ』には、各組のトップコンビの顔写真が見開きで掲載されている。また、劇団の公式ホームページでも「スター」というメニューで各組を選ぶと、組子の一覧、トップスターのプロフィール、トップ娘役のプロフィールと3種類のメニューが出てくる。現在の組の中心は「トップスター」というより、あくまでもトップスター中心の「トップコンビ」にあると言って良い。場面を切り取って見ても、トップスターがメインの場面やトップコンビの場面は多く描かれているが、娘役がメインの場面は少ない。

また、1967年よりトップ娘役となった初風諄以来、トップスターとトップ娘役の学年は基本的に娘役の方が下で、学年差も大きく開いている場合が多い。例えば、直近10年の例を見ると、最も学年差が開いていたケースとして、78期の大空祐飛(在団 1992-2012)と91期の野々すみ花(在団 2005-2012)は13学年離れていた。この娘役の学年が下であるという構図も、娘役が男役を尊敬し、立てる構図を作り出していると考えられる。男役は3番手、2番手と次期トップスター候補が決まっている。所謂「路線」である。後々相手役となる娘役も、その男役スターに合うか合わないかを基準に選ばれている場合が多く、トップスター、トップ娘役が退団する前に、娘役の人事異動が行われる場合が多い。直近の例で言えば、来年2021年2月22日より宙組トップ娘役に就任する事になった潤花(在団 2016-)は2020年9月7日付けで雪組より組み替えとなったばかりだった。また、その一つ前の人事発表でも、2019年10月14日付けで星組トップ娘役に就任した舞空瞳(在団 2016-)は同年4月29日付けで花組より組み替えとなったばかりだった。

しかし、「1章 はじめに」でも述べたとおり、2010年以降フェミニズム運動第4波が始まったとされている。19世紀後半から20世紀初頭に参政権などを求めた第1波、1960年

¹⁰ 「平成のゴールデンコンビ早霧せいな・咲妃みゆ退団公演 宝塚雪組『幕末太陽傳』『Dramatic “S”!』上演中!」、『宝塚ジャーナル』、2017年7月2日

¹¹ 「早霧せいな 本拠地に別れ パレードに6000人殺到「世界中どこを探してもこんな景色はない」、スポーツニッポン、2017年5月29日

から1970年には「女性らしさ」からの解放や、雇用や賃金の平等を求めた第2波、1990年から2000年代初頭には「自分が好きならどんな格好をしても、どんな容姿でもいいじゃないか」という主体的らしさ、多様な「女性」を求めた第3波、そして2010年代のインターセクショナリティ発想を大事にしながらSNSで発信することで声を上げる第4波である。2014年には日本政府が「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」などを開催しており、それ以降、社会的に女性活躍推進に積極的に取り組んでいる国や会社も多い。フェミニズム運動も著名人、例えばエマ・ワトソンなどが参加し、非常に盛んである。エマ・ワトソンは2014年7月に国連のUN Women 親善大使に任命され、若い女性のエンパワーメントやジェンダー平等を推進している。2014年9月20日には「HeForShe」について国連本部でスピーチを行った。

こうしたフェミニズム運動の影響はエンターテインメント業界にも及んでおり、女性の自立を描いた作品や現代版にアップデートした作品が国内外で目立つ。その傾向が顕著なのはディズニープリンセス映画である。かつてのプリンセスアニメーション映画を実写化することで、現代の価値観を取り入れたアレンジをしている。例えば、2019年に実写化した映画『アラジン』では、原作にはない「Speechless」というヒロイン、ジャスミンのソロ曲が追加され、ラストではジャスミンが一国の王となる。「Speechless」はどんなことがあっても、黙って黙認するのではなく、たとえ更なる困難が待っていようとも声を上げて立ち上がるのだと言うジャスミンの決意を表した曲である。ディズニープリンセスの「実写化」、または「ディズニープリンセスのアップデート」の1作目は『シンデレラ』で、その公開は2015年だった。また、宝塚歌劇団においても、男性ばかりの演出家の中で史上3人目の女性演出家で、非常に高い人気を誇る上田久美子が大劇場作品デビューを飾った年も2015年だった。では、この2015年から、ファンの9割を女性が占め、演者は100%女性の宝塚歌劇団で作品中の女性の描かれ方や扱われる作品は変わったのだろうか。そして、「プリマドンナ」から「寄り添う」娘役へと娘役像が変わったと言われているが、娘役の役割や描かれ方は2015年以降再び変わろうとしているのだろうか。

4章 娘役の描かれ方は変化したのか

まずは、100周年までの2010年～2014年に大劇場で上演した作品を見ていきたい。

	花組	月組	星組	雪組	宙組
2010	『虞美人』 『麗しのサブリーナ』	『スカーレットピンパーネル』 『ジプシー男爵』	『ハプスブルクの宝剣』 『愛と青春の旅立ち』	『ソルフェリーノの夜明け』 『ロジェ』	『TRAFALGAR 誰がために鐘は鳴る』

2011	『愛のプレリュード』 『ファントム』	『バラの国の王子』 『アルジェの男』	『めぐり合いは再び』 『オーシャンズ11』	『ロミオとジュリエット』 『仮面の男』	『美しき生涯』 『クラシコイタリアーノ』
2012	『復活』 『サン・テクジュベリ』	『エドワード 8 世』 『ロミオとジュリエット』	『ダンサ・セレナータ』 『めぐり合いは再び』	『ドン・カルロス』 『JIN 仁』	『華やかなりし日々』 『銀河英雄伝説』
2013	『オーシャンズ11 愛と革命の詩』	『ベルサイユのばら -フェルゼン編』 『ルパン』	『ロミオとジュリエット』	『ベルサイユのばら』 『 Shall we dance?』	『モンテ・クリスト伯』 『風と共に去りぬ』
2014	『ラストタイクーン』 『エリザベート』	『明日への指針』 『PUCK』	『眠らない男ナポレオン』 『 The Lost Glory』	『夢庵風流記 前田慶次』	『ベルサイユのばら -オスカル編』 『白夜の誓い』

(サブタイトル省略)

100周年という劇団にとって記念すべき年、2014年を目前としていたことも影響しているとはいえ、『ベルサイユのばら』や『ロミオとジュリエット』、『スカーレットピンパーネル』、『エリザベート』など、有名作品を繰り返し様々な組で再演していた印象を受けた。また、『虞美人』や『ハプスブルクの宝剣』、『TRAFALGAR』、『バラの国の王子』、『仮面の男』、『ドン・カルロス』、『めぐり合いは再び』、『風と共に去りぬ』、『眠らない男ナポレオン』、『白夜の誓い』など時代設定が古い、所謂コスチューム作品が多く、女性の描かれ方も古典的な作品ばかりだった。『太王四神記』は紀元前から7世紀まで朝鮮半島に実在した高句麗、『虞美人』では秦の始皇帝死後の中国、『ハプスブルクの宝剣』は18世紀前半、『TRAFALGAR』18世紀半ば、『バラの国の王子』は王族のおとぎ話、『仮面の男』は17世紀、『ドン・カルロス』16世紀、『めぐり合いは再び』は18世紀に書かれた喜劇『愛と偶然との戯れ』をミュージカル化、『風と共に去りぬ』は1860年代～1870年代、『眠らない男ナポレオン』は1769年～1821年のナポレオンの生涯、そして『白夜の誓い』は、18世紀が舞台だった。時代設定が古いと、男尊女卑の価値観や、三步下がって付いてくる内助の功こそ「良妻」とする女性像、娼婦などが登場する傾向がある。例えば、『虞美人』の第1幕12場では、後宮の女性たちが劉邦に向かって、

「劉邦さま 劉邦さま 貢物です 貢物は私たちです」¹²

「劉邦さま 劉邦さま 貢物です 酒に魚 鳥に野菜 お召し上がりください」

13

と歌う場面があり、酒や食べ物と同列に、女性自らが自分たちも貢物だと歌っている。また、第2幕第6場では虞美人が夫、項羽を思って

「あの方に 尽くすばかりです

捧げて 捧げて 捧げ尽くしたら…

私は消えます あの方のほかには 誰も捕らえられません」

と歌い、最後の場面では、もう自分は足手纏いだからと項羽の前で自害する。本作ヒロインの虞美人は、項羽に文句一つ言わず、政治に口を出すこともなく戦場にまでついて行き、項羽の心の拠り所となり、最後まで尽し続ける。そして最後に項羽の前で自害する姿は、項羽の為であればいかなる自己犠牲も厭わない「良妻」ぶりが表現されている。虞美人の対比として、劉邦の妻、呂が描かれている。呂は劉邦に天下を取って自分を妃ではなく皇后にして欲しいと言ったり¹⁴、桃娘を言いくるめていずれ天下を巡り争う事となる項羽の妻、「虞美人に取り入りなさい」¹⁵と命令したりと、夫の政治にも口を挟んだ。特徴的なのは、この呂が虞美人と相反して悪女に描かれていた事である。二人の特徴から、文句を言わず、夫が行く先どこまでもついて行き、いつも笑顔で帰りを待ち、夫の仕事には口を挟まない妻こそが「良妻」という価値観が伝わってくる。

次に、ディズニープリンセス実写化第一段『シンデレラ』が公開された2015年から2019年までをたどり、大劇場公演に特化して取り上げる。以下がこの5年間で上演された作品である。

	花組	月組	星組	雪組	宙組
2015	『カリスタの海に抱かれて』 『新源氏物語』	『1789』 『舞音』	『黒豹の如く』 『ガイズ&ドールズ』	『ルパン三世』 『星逢一夜』	『王家に捧ぐ歌』

¹² 『虞美人』、木村信司、『Le CINQ vol.116』、第1幕第12場

¹³ 前掲書、同

¹⁴ 前掲書、第1幕第7場

¹⁵ 前掲書、第2幕第11場

2016	『ME AND MY GIRL』 『金色の砂漠』	『NOBUNAGA』	『こうもり』 『桜華に舞え』	『るろうに剣心』 『私立探偵ケイレブ・ハント』	『Shakespear』 『エリザベート』
2017	『邪馬台国の風』	『グランドホテル』 『All for One』	『スカーレットピンパーネル』 『ベルリン、我が愛』	『幕末太陽傳』 『ひかりふる路』	『王妃の館』 『神々の土地』
2018	『ポーの一族』 『MESSIAH』	『カンパニー』 『エリザベート』	『Another World』	『凱旋門』 『ファントム』	『天は赤い河のほとり』 『異人たちのルネサンス』
2019	『CASANOVA』 『A Fairy Tale』	『無限無双』 『I AM FROM AUSTRIA』	『霧深きエルベのほとり』 『GOD OF STARS』	『壬生義士伝』	『オーシャンズ 11』 『El Japon』

(サブタイトル省略)

100周年以前の5年と比較して最も変化したと思われる点は、時代設定が現代、または現代に近い作品が増えた事ではないだろうか。『舞音』『黒豹の如く』『ガイズ&ドールズ』『ME AND MY GIRL』『私立探偵ケイレブ・ハント』『ベルリン、我が愛』『王妃の館』『カンパニー』『GOD OF STARS』『I AM FROM AUSTRIA』がその例だ。『舞音』は1929年、『黒豹の如く』は第一次世界大戦後、『ガイズ&ドールズ』は1948年頃、『ME AND MY GIRL』は1930年代、『私立探偵ケイレブ・ハント』は20世紀半ば、『ベルリン、我が愛』1920年代～1930年代、『王妃の館』、『カンパニー』『GOD OF STARS』『I AM FROM AUSTRIA』は特に明記はされていないが、現代の設定である。100周年以前の作品は、17世紀、18世紀の作品が多かったのに対し、100周年以降は19世紀以降の作品が多いことがわかる。更に特徴的なのは、「自立した女性が描かれている」、または「娘役の役割が変わった」と思われる作品(表中に赤字で表示)が増加した点である。その中でも、本稿では「男性演出家作品」、「女性演出家作品」、「海外輸入作品」の観点から作品を取り上げて、増加した理由を論じる。

4-1 『私立探偵ケイレブ・ハント』

まず、「男性演出家作品」の例として、2016年の雪組公演、『私立探偵ケイレブ・ハント』を挙げたい。この作品は、正塚晴彦が脚本と演出を手がけ、早霧せいなと咲妃みゆが主演を務めた。この作品を女性の描写が変化した例として取り上げた最大の理由を、同じく正塚晴

彦が1993年に手がけた花組の大劇場公演『メランコリック・ジゴロ～危ない相続人～』と比較して述べたい。

『メランコリック・ジゴロ』のあらすじは以下の通りである。時は、第一次世界大戦後のヨーロッパで、主人公であるジゴロのダニエルは、パトロンだった女性に見放され、途方に暮れていた。そこに、友人スタンが「睡眠口座」と呼ばれる、持ち主がいなくなったり、死んだりして、長いこと放って置かれた口座の偽の受取人となり、お金を稼ごうと持ち出す。自分にそっくりな青年、アントワンになりすまし、口座を相続した二人の前にアントワンの妹、フェリシアが訪ねてくる。15年ぶりの再会を喜ぶ彼女に本当のことを言い出せないでいた折、更に二人の昔馴染みだという怪しげな男フォンダリが現れる。しかし、そのフォンダリと、アントワン、フェリシア兄妹の父親は過去の列車強盗事件の容疑者で、その真相に迫っていくという話だ。

一方、『私立探偵ケイレブ・ハント』のあらすじは以下の通りである。「舞台は20世紀半ばのロサンゼルス。探偵事務所の所長を務めるケイレブは、共同出資者である探偵仲間のジムやカズノと共に高級住宅街に住むセレブ達の浮気調査やトラブル対応に奔走する日々を送っていた。スタイリストとして働く恋人イヴオンヌとの関係も良好だったが、互いの生き方を尊重する二人は、新たな段階に踏み出す機会を見出せずにいた。そんなある日、行方不明となった娘アデルの捜索依頼にやって来たメキシコ人夫婦が直後に事故死するという事件が起きる。ケイレブは夫婦の願いに応える為、早速調査を開始。やがて、とある会員制の超高級クラブでアデルらしき女を発見するが、別の調査を進めていたジムとカズノが追う人物も、このクラブの関係者であることが判明する。果たしてそこは犯罪組織の隠れ蓑なのか。クラブのオーナーであるマクシミリアンと接触する為に彼の屋敷を訪れたケイレブは、そこで思いがけずイヴオンヌの姿を見かける…。仲間達と力を合わせ敵に立ち向かうケイレブと、その身を案じながらも彼を支えるイヴオンヌとの大人の恋の行方を描くミュージカル。」¹⁶

この2作品は非常に類似している点が多い。まずは設定である。『メランコリック・ジゴロ』は第一次世界大戦後、『私立探偵ケイレブ・ハント』は20世紀半ばとしているが、劇中の台詞の中で戦争を生き延びた旨をケイレブが話していることから、第二次世界大戦後が舞台なのではないかと予想できる。そして、登場人物も類似している。主人公をトップスター、そのビジネスパートナーを2番手男役が務め、両作共二人はスーツ姿のジゴロと私立探偵である。また、それぞれに恋人がおり、2番手男役の恋人、ティーナ（『メランコリック・ジゴロ』）とレイラ（『私立探偵ケイレブ・ハント』）はどちらもどこか幼く、無邪気で、天真爛漫な役柄だ。物語自体も、事件の真相を追っていく内容である点や、敵対する人物が強盗犯やマフィアと、いずれも犯罪者で類似している。

¹⁶ 『私立探偵ケイレブ・ハント/ Greatest HITS!』、宝塚歌劇団オフィシャルウェブサイト、<https://kageki.hankyu.co.jp>、参照2020年5月12日

このようによく似た二つの作品の最大の違いがヒロイン像である。1993年に上演された、『メランコリック・ジゴロ』のヒロイン、フェリシアは、いつもどこか自信がなさそうで、仕事ができないと怒られ、か弱く、いつもダニエルに守られている。フェリシアが何をやるのも遅くて、仕事ができないのは図書館司書の先輩、イレーネとフェリシアの会話からわかる。

イレーネ「フェリシア」

フェリシア「あっ…」

イレーネ「あっ…じゃないでしょう。新聞綴じるのにいつまでかかっているのよ。カードだって整理しなきゃならないっていうのに。」

フェリシア「すみません…」

イレーネ「言いたくないけどあなたはやるのが遅いのよ。自分でわかってる？」

フェリシア「すみません…はい…」

イレーネ「私はあなたのお守役じゃないんだから。頭が悪いわけじゃないのでしょう。もう少ししっかりしないと、結婚もできないわよ。」¹⁷

また、フォンダリに誘拐された後、ホテルの一室でのダニエルと会話から、フェリシアは幼い頃からマイペースでいじめられっ子だったことがわかる。

ダニエル「謝るの、癖か、お前」

フェリシア「どうして？」

ダニエル「ごめんごめんって何回も聞いたような気がする」

フェリシア「そうかな。子供の頃からいつもグズグズって言われて、学校の昼休みが嫌だった。」

ダニエル「どうして？」

フェリシア「いくら一生懸命食べても時間内に食べきれないの。教室で一人になって、よくからかわれたよ。」¹⁸

そしてフェリシアは「お兄ちゃんがいなきや私…」や「もう一人じゃないよね」などの言動を繰り返しており、フォンダリに追いかける場面などでもすぐにダニエルの後ろに隠れてしまう。このことから、フェリシアはダニエルをとて頼りにしていて、ダニエルがいなくては生きていけないと思っていることが感じられた。

¹⁷ 公演ブルーレイ『メランコリック・ジゴロ -危ない相続人-?/EXCITER!!2018』、株式会社宝塚クリエイティブアーツ、2018年

¹⁸ 前掲映像

一方、『私立探偵ケイレブ・ハント』のヒロイン、イヴォンヌはフリーランスのスタイリストであり、自分のキャリアは自分で切り開いていく強さを持ち、ケイレブとも対等な関係を築いている。その様子が分かる3つの場面を挙げよう。1つ目は、イヴォンヌの誕生日に、サンタモニカのレストランで行われたケイレブとの会話だ。

ケイレブ「仕事は順調？」

イヴォンヌ「なんとかやっていると。顧客もついたし。」

ケイレブ「やっぱり店は持たないの？」

イヴォンヌ「いつかはね。パイヤーとしての私のブランドが確立したら。世界中の良いものを集めて、それをふさわしいところに提供したいのよ。服だけじゃなくて人が憧れるようないろんな素晴らしいものを。」¹⁹

2つ目はマックスアクターズプロモーション社長マクシミリアンのオフィスでケイレブとイヴォンヌが鉢合わせした時の、マクシミリアンの台詞も象徴的だ。

マクシミリアン「じゃあハントくん君も同席したまえ。これから彼女にリゾートクラブの新しいファッションプランを提案してもらうことになっている。今年で5周年を迎えるものでね。」²⁰

また提案後には、

マクシミリアン「ところでどうしてもフリーランスがいいのかね。専属になってくれるなら最高の条件で迎えるが、どうだ。」²¹

とイヴォンヌに打診しており、スタイリストとして高く評価されていることがわかる。最後は事件解決後、ケイレブとイヴォンヌの二人がレストランで食事をした後の会話だ。

イヴォンヌ「明日からパリなのよ」

ケイレブ「え」

イヴォンヌ「ごめんね、言いそびれていて」

ケイレブ「いや」

¹⁹ 公演ブルーレイ『私立探偵ケイレブ・ハント/ Greatest HITS!』、株式会社宝塚クリエイティブアーツ、2016年

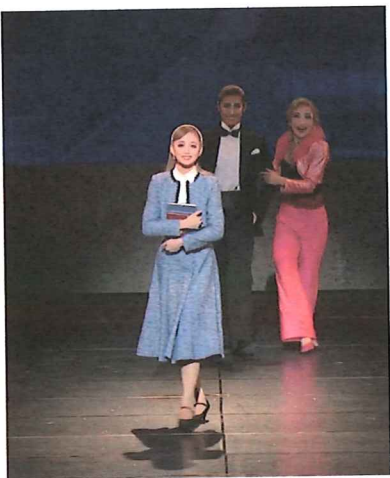
²⁰ 前掲映像

²¹ 前掲映像

イヴォンヌ「前から決まっていたんだけどね」
ケイレブ「買い付けか」
イヴォンヌ「そう」
ケイレブ「いつ戻る」
イヴォンヌ「はっきりとは決めていないのよ。ミラノにも行きたいし」
ケイレブ「ゆっくり話したかった今度のこと。いや、これからのことも。」
イヴォンヌ「ええ」
ケイレブ「本当はもっと前に話すべきだったんだ。」
イヴォンヌ「だから一人でゆっくり考えてくる。それもいいんじゃないかと思っ
て。自分が本当はどうしたいのか。」²²

この最後の会話からは特に、イヴォンヌが今までもそしてこれからも、仕事、及び恋愛において自分で考え、自分で決めた道を歩もうとしていることが窺える。

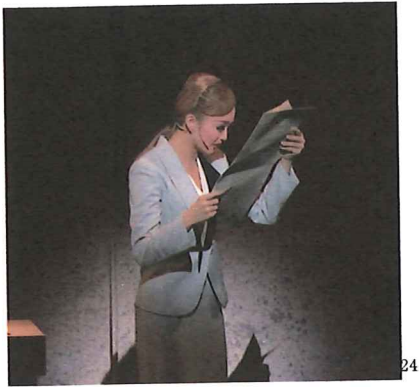
このような二人のヒロイン像の違いは彼女たちの衣装にも顕著に表れている。『メランコリック・ジゴロ』でフェリシアが着る1着目は、冒頭のナンバーと物語の大部分の場面を通じて身につけている水色のスカートのセットアップだ。ほぼ露出はなく、髪はおろして白いカチューシャをつけている。



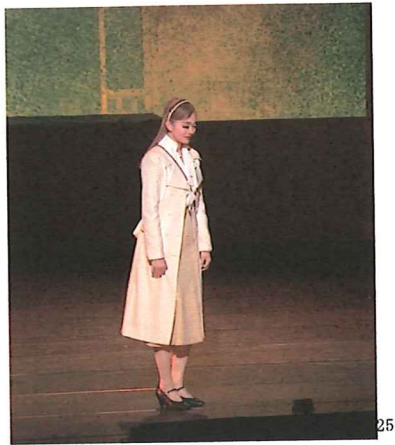
2 着目は職場の図書館の場面で、水色がかった薄いグレーのスーツのスカートタイプのセットアップに黒のパンプスと黒のバレッタで髪をまとめている。こちらも長袖で殆ど露出はない。

²² 前掲映像

²³ 公演ブルーレイ『メランコリック・ジゴロ -危ない相続人-?/EXCITER!!2018』、株式会社宝塚クリエイティブアーツ、2018年



また最後の場面では、白いトレンチコート、白い長袖のブラウス、薄い黄色のスカートを着ていた。（1着目のセットアップと白いトレンチコートは物語中盤でも着ている。）



一方、『ケイレブ・ハント』におけるイヴォンヌの1着目は冒頭のナンバーで着用しているワインレッドのノースリーブドレス。

²⁴ 前掲作品

²⁵ 前掲作品



2 着目は映画の撮影現場で、黒いノースリーブに赤いパンツ。



3 着目はイヴォンヌの誕生日ディナーの時に薄いピンクに赤や青のボーダーが入ったシャツワンピース。

²⁶ 公演ブルーレイ『私立探偵ケイレブ・ハント/ Greatest HITS!』、株式会社宝塚クリエイティブアーツ、2016年

²⁷ 前掲作品



4 着目はマクシミリアンのオフィスにて赤いノースリーブシャツに黒いボーダースカート。



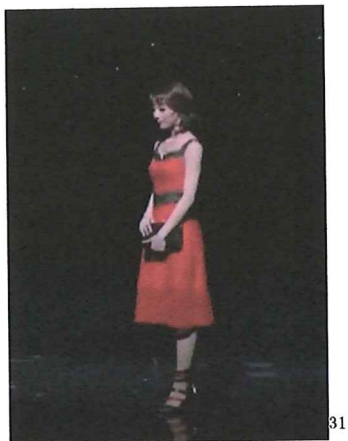
5 着目はマクシミリアンの手下から逃れる際に、黒に赤い柄のワンピース。

28 前掲作品

29 前掲作品



そして6着目は事件解決後、レストランにて真っ赤なノースリーブのドレスだ。



以上のことから、フェリシアは水色や白など、淡い色の衣装が多かったのに対し、イヴォンヌは赤や黒などヴィヴィッドな色の衣装が多いことが分かる。また、フェリシアは殆ど露出がなく、きっちりとした装いだったのに対し、イヴォンヌは基本的にノースリーブで、ファッションのスタイリングもとてもスタイリッシュだった。こうした衣装の色や洋服の種類、着こなしからも、儂げなフェリシアと、凛々しいイヴォンヌの印象が作られていると考える。しかし、物語の設定自体に20年程の差があるとはいえ、設定された第一次世界大戦後から第二次世界大戦後の20年間でステレオタイプの女性像に大きな変化があったとは考えづらい。これらのことから、『私立探偵ケイレブ・ハント』は『メランコリック・ジゴロ』の上演された1993年当時から2016年の女性観に合わせて、ヒロイン像をより自立した女性へアップデートした作品であると考察する。

³⁰ 前掲作品

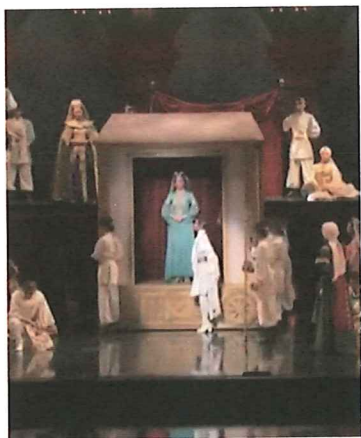
³¹ 前掲作品

4-2 『金色の砂漠』

次に、「女性演出家作品」として、2016年の花組公演『金色の砂漠』と2020年の花組公演『はいからさんが通る』を挙げたい。まず、『金色の砂漠』だが、この作品は上田久美子が脚本、演出を手がけ、明日海りお(在団2003-2019)と花乃まりあ(在団2010-2017)が主演を務めた。上田久美子にとって2作目の大劇場公演であり、トップ娘役花乃まりあの退団公演でもあった。この作品は、トップスター至上主義である宝塚に未だかつてない衝撃を与えた。驚くべき特徴は、その設定にある。トップ娘役、花乃まりあが王女役を務め、トップスター明日海りおがその奴隷役を務めたのだ。また、上演当時、男役2番手スターだった芹香斗亜(在団2005-)や、現在花組の2番手スターである瀬戸かずや(在団2002-)も同じく奴隷役である。

作品のあらすじは以下である。「昔々、いつかの時代のどこかの国。砂漠の真ん中にあるその王国の王女は、“ギィ”という名の奴隷を持っていた——。自分がどこから来たのかも知らず、王女タルハーミネの奴隷として育てられた少年、ギィ。常に王女に付き従って世話をする彼は、長じるにつれ、美しく傲慢な王女に心惹かれるようになる。ギィを憎からず思うタルハーミネではあったが、王女の立場と何より彼女自身の矜りが、奴隷を愛することを許さない。タルハーミネはわざと高圧的な態度でギィを虐げる。奴隷でありながら矜り高いギィは、そんな王女を恋の前に屈服させたいと激しい思いを募らせる。ギィの怒りにも似た愛は、やがて報復の嵐となってタルハーミネと王国を呑み込んでゆく——。架空の古代世界を舞台に描き出される、愛と憎しみの壮絶なアラベスク。」³²

トップ娘役が演じる、王女タルハーミネが初登場する方法からして、従来の慣習を覆すものだった。タルハーミネが御輿から降りる際、トップスター明日海りおが演じる奴隷ギィを踏み台にして降りるのだ。



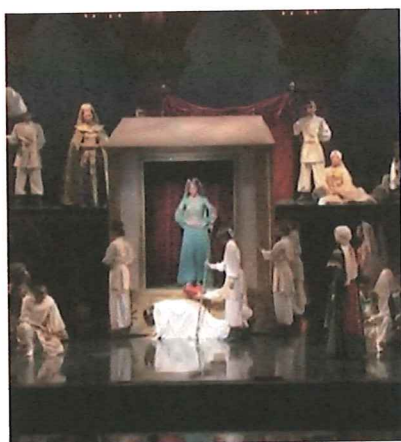
33

³² 『金色の砂漠』、宝塚歌劇団オフィシャルサイト、<https://kageki.hankyu.co.jp>、参照2020年5月12日

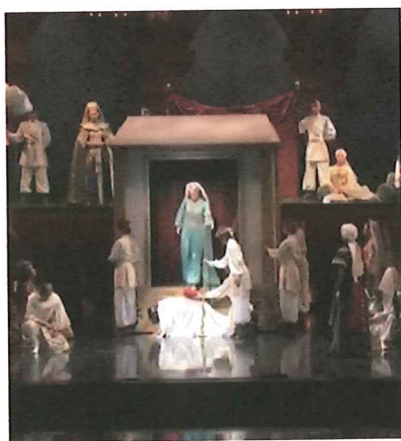
³³ 公演ブルーレイ『雪華抄/金色の砂漠』、株式会社宝塚クリエイティブアーツ、2017年



34



35

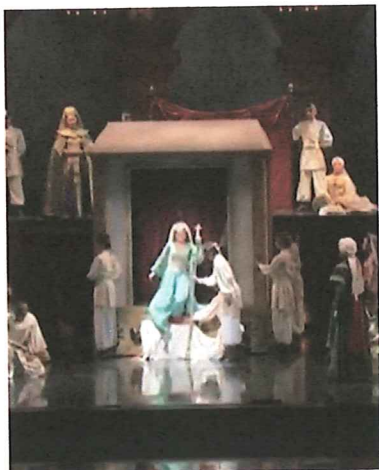


36

34 前掲作品

35 前掲作品

36 前掲作品



37

その他にもギイの額にタルハーミネがナイフで傷を付けたり、タルハーミネの代わりにギイが鞭で打たれるなど、男役、特にトップスターを物語の中心に据え、ヒーローとして描いてきた今までの慣例を覆す演出が多数あった。

タルハーミネ自身も気高くて気が強く、今までにないヒロインである。その気高さはギイとの関係性に見る事ができるばかりでなく、一国の王女としての振る舞いにも表れている。王女といってもただの姫には止まらず、夫テオドロスと共に国の政治に関わっていた。テオドロスがタルハーミネの父、ジャハンギールに砂漠の盗賊を恐れて交易が止まっている現状を訴え、一掃するため、兵力のすべてを自分に託してほしいと願い出たが、なかなか許してくれない父を見て、

タルハーミネ「なれど国王様、富の力なくして大きな兵力は養えません。この辺りの砂漠を平定し、イスファンを全ての交易の拠点とすれば、財力においてガリアをも凌げる……。富を得て、兵力を得れば、この国はガリアを攻め滅ぼせるほどの力を持つかもしれません」

と論理的に述べて説き伏せる。³⁸また、ギイが率いる砂漠の盗賊たちが城に攻め入った際も、逃げると言い出したテオドロスに対し、「逃げる？何のお話？」「戦わずして城を明け渡すなどありえない」と言い放ち、「命より城が惜しいか！」と声を上げたテオドロスに対し、「惜しいのは城でも命でもない。おわかりにならないの」と冷たい視線を向けた。³⁹

上田は宝塚歌劇団初の女性演出家というわけではない。しかし、この作品は間違いなく、多くの宝塚ファンに衝撃を与え、三人目の女性演出家上田久美子が人気演出家となっ

³⁷ 前掲作品

³⁸ 『金色の砂漠』、上田久美子、『Le CINQ vol.179』、55頁

³⁹ 前掲書、56頁

たきっかけであり、トップ娘役花乃まりあの集大成だった。⁴⁰この作品が人気を博し、共に演出家の名声も上げたことから、宝塚歌劇において新たなヒロイン像が受け入れられたことを示すと考える。

4-3 『はいからさんが通る』

次に、本年2020年に上演された最新の花組大劇場公演『はいからさんが通る』を紹介する。本作は2017年に小劇場公演として現花組トップコンビ、柚香光(在団2009-)と華優希(在団2014-)が小劇場公演として上演した作品の再演である。この作品は、大和和紀作の少女漫画で、1970年代、80年代にヒットした作品である。宝塚歌劇版の脚本、演出は小柳奈穂子が担当しており、分類で言えば女性演出家作品に当たる。あらすじは以下である。「1975年から77年に『週刊フレンド』で連載された大和和紀氏原作の『はいからさんが通る』は、大正浪漫華やかかなりし東京を舞台に、眉目秀麗で笑い上戸な陸軍少尉・伊集院忍と、はいからさんと呼ばれる快活な女学生・花村紅緒が繰り広げる波乱万丈の恋物語。」⁴¹

この作品の主人公、花村紅緒は陸軍少佐の娘で何不自由ない生活を送っているが、小さい頃に母を亡くし、男手一つで育てられたせいにか非常に男勝りでお転婆な性格である。剣術に長けていたり、裁縫が得意でなかったり、大正時代の良妻賢母とは程遠く、許嫁と結婚することが当たり前である世の中に否定的な感情を持っている。また、劇中では紅緒の他に紅緒の学友、北小路環と言うキャラクターが出てくる。環は華族の血を引くお嬢様でありながら女性は自立するべきだと考え、当時の女性には許嫁がいて、嫁入りすることが決まっており、良き母となることが当たり前とされた生き方を幾度となく劇中で否定している。後に二人はともに、記者になり、職業婦人となる。この二人の発言を中心に幾つか女性の自立や社会進出を描く場面を分析する。

まず、紅緒と少尉の出会いの場面では、自転車で転んだ紅緒を笑う少尉の頬を叩いて、

紅緒「西欧の流儀です。婦人を笑うなんてえちけつとに反するということをごぞんじないのですか！あなたのような人がいるから、日本女性の地位は向上しないんだわ！失礼！」

⁴⁰ 「宝塚歌劇団・演出家 上田久美子の世界/ホーム・シアトリカル・ホーム～自宅カンゲキ1-2-3 [vol. 32] 〈宝塚編〉」、エンタメ特化型情報メディア スパイス、<https://spice.eplus.jp>、参照2021年1月2日

⁴¹ 『はいからさんが通る』、宝塚歌劇団オフィシャルウェブサイト、<https://kageki.hankyu.co.jp>、参照2020年11月12日

と、言い放つ。⁴²ヒロインがトップスターと出会い頭に頬を引っ叩いて、あなたみたいな男性がいるから私たち日本女性の地位が向上しないと放つ事は宝塚歌劇にとって非常に斬新だ。次に、女学校にて、浴衣を縫う宿題を忘れた紅緒が教師に叱られる場面では、

女教師「我が跡見女学館は良妻賢母を育てる為、行儀作法、花嫁修行、その他もろもろ、女子として恥ずかしくない教養を身につけ、輝く日本の母となることを旨としております。それがなんですか、子供みたいに自転車に乗って転んで遅刻した上、宿題の浴衣も忘れてたなどと」

紅緒「ええと、ついうっかり！」

女教師「なるほど、ついうっかり」

紅緒「ええ！それに、遅刻したのは・・・」

女教師「だまらっしゃい！女が言い訳など見苦しい！それにあなたは先週も、先々週も、先々々週も、うっかり宿題を忘れたとおっしゃる。ぞうきん一枚縫えないくせに…このままではあなたのような反抗的な人を貰ってくれる殿方など現れません！心根を入れ替えるまで、ここに立っていなさい！」

紅緒「そんな・・・」

環「お待ちください！」

女学生「環さま！」

環「わたくしは先生の意見には賛同しかねますわ」

女教師「北小路さん！華族の血を引き、我が校随一の優等生であるあなたが、こんな劣等生の味方をするのですか！」

環「平塚らichょう先生はこうおっしゃっています。原始、女性は実に太陽であった。私たちは殿方に選ばれるのではなく、私たちが殿方を選ぶのです。この方を反抗的と言うのなら、わたくしもここに一緒に立っています！」⁴³

冒頭の少尉と紅緒の出会いの場面に続き、良妻賢母になれという教師に向かって紅緒だけでなく、紅緒の学友環までもが平塚らichょうの言葉を引用して反抗するという場面である。主人公一人が時代の先をいく考えを持っているのではなく、多くの女性がこれからの時代、女性もただ女学校に通い家事を学び、結婚をして家に入るのではなく自立していきべきだと考えていた事を表している。

続いて、第二幕の開演ナンバー「大正デモクラシー・ガールズ」の歌詞を紹介する。中心で歌うのは環である。

⁴² 『はいからさんが通る』、大和和紀原作、小柳奈穂子脚本演出、『Le CINQ vol.209』、47頁

⁴³ 前掲書、47頁

「街をゆく 私たち モダンガールズ
足音を響かせて 踊るはデモクラシー
自由とプライドを 小脇にかかえ
支える手はいらないの ひとりで立てる
料理に掃除 お裁縫 くだらないわ
政治と科学と未来が 私を呼ぶ
恋も人生も命がけ 優しさより激しさで この身焦がしたい
女大学もう古い 時代遅れ
亭主関白がいいなら よそへどうぞ
恋も人生も渡さない
昨日よりも 明日を見て命燃やすの この身焦がして」⁴⁴

第二幕の始まりを娘役ナンバーで始めることはとても珍しい。振り付けも、「支える手はいらないの ひとりで立てる」という歌詞に合わせて、途中から出てくる男役の手を振り払う振付けがあり、これもまた斬新な場面である。次は、紅緒が初めて冗談社を訪れた際の冬星と紅緒の会話である。

冬星「カフェーの集金なら今日は都合が悪い。帰ってくれ」
紅緒「集金じゃありません、あの、私、仕事を探していて、吉次さんからこちらの出版社で社員を募集しているって聞いて・・・」
冬星「何・・・社員？」
紅緒「ええ」
冬星「貴様、女の分際で就職する気か」
紅緒「あれ？あなたは・・・」
冬星「俺はこの編集長、青江冬星だ。俺は男を紹介しろと言ったのだ。女ごときにさせる仕事はない。」
紅緒「まあ。失礼だわ。女だって仕事はできます。現に私の亡くなった母は女性記者でした。」
冬星「おまえの母親のことは知らん。とにかく俺は徹底した男尊女卑なんだ。従って女は雇わん。帰れ！」
紅緒「なんなのよ、さっきから・・・」⁴⁵

「俺は徹底した男尊女卑なんだ」と言い切る冬星に紅緒が反抗する姿が描かれている。実

⁴⁴ 前掲書、56頁

⁴⁵ 前掲書、56頁

際、冬星は家族関係がきっかけで男尊女卑となるが、「女の分際で就職する気か」という台詞は当時のまだ時代の流れについていけない多くの男性の本音だったと考える。そして最後、環との別れの場面。

環「忍さん！鬼島さんが満州へ帰ったって本当？」

忍「ええ。東京の暮らしは肌に合わないと言って、満州で事業を始めるですよ」

紅緒「ちょっと、環、どこへ行くのよ」

環「会社へ。満州死者への転勤を希望するわ」

忍、紅緒「え？」

紅緒「だって環・・・あんた華族の御曹司と婚約したって！・・・」

環「婚約？そんなもの、家出しちゃえば向こうだってあきらめるわ。私、鬼島さんが好きよ」

忍、環「ええーっ」

環「華族のおぼっちゃまなんて退屈でうんざり。私は誰かに選ばれるのではなく、私が誰かを選ぶのよ。じゃあ、二人とも、幸せにね！満州から手紙を書くわ」⁴⁶

環は最初から最後まで、自立した時代の先をいく女性として描かれていた。華族出身のお嬢様でありながら新聞社で働き、その上親が用意した結婚を破断させてまで自分が選んだ人の元へ行く決断をする環は、夢の舞台宝塚歌劇と2020年現在の私たちの心を繋ぐ役だった、と考える。以上のことから、『はいからさんが通る』は近年の作品の中では最も女性の自立と社会進出を大きく取り扱った作品だったと言える。今まで、女性が既に働いていたり、男性と対等に渡り合っていたりする姿を描いた作品は上演されていたが、台詞や歌の歌詞に女性は自立するべきだ、とここまで言語化した作品は初めてだった。

4-4 『エリザベート』と『I AM FROM AUSTRIA』

そして最後に、「海外輸入作品」として、1996年の初演以降幾度となく再演を続けている『エリザベート』（1996）と同じオーストリアミュージカルである『I AM FROM AUSTRIA』（2019）を挙げたい。『エリザベート』は100周年以降の6年間でも、2014年に花組で、2016年に宙組で、2018年に月組で上演されている。この作品は王家に嫁ぎ、皇后となったがその堅苦しくしい生活から逃れ、自由を追い求め続けるオーストリアのエリザベート皇后と、皇后を生涯愛した国王フランツ、そして、皇后を愛し「死」という逃げ道へ誘う黄泉の帝王トートの人間関係を描いた作品である。エリザベートが皇后となって初めての朝に歌う「私だけに」という歌は、彼女の皇后という枠には囚われず、自由に自立して生きていく決意が歌われていおり、この作品の代表曲となった。

⁴⁶ 前掲書、62頁



歌詞の中では、

「嫌よ 大人しいお妃なんて なれない可愛い人形なんて あなたのものじゃないの この私は」

や、

「嫌よ 人目にさらされるなど 話す相手私が選ぶ 誰のものでもない この私は」

と、たとえ自分が女性で、王家の人間で、皇后だったとしても誰に属す訳でもなく、自立していることを訴えている。⁴⁹また、1幕12場では親から引き離し、鞭で打って叱る王家の子育てに対するしきたりは古すぎると一喝し、子ども達の教育を任せて欲しいと主張する。そして、エリザベート自分の美貌を政治に活かせることに気づき、ハンガリー併合に貢献したり、精神病院の慰問をしたり、政治活動も活発に行った。トートと共に歌う「私が踊る時」の中でも、「私はもう一人で飛べる 自由になるのよ」や、「やっと歩き出した私だけの道を邪魔しないで」、「踊るなら命果てるその時でも一人舞う あなたの前で」な

⁴⁷ 公演ブルーレイ『エリザベート -愛と死の輪舞-』、宝塚クリエイティブアーツ、2014年

⁴⁸ 前掲作品

⁴⁹ 『エリザベート』、ミヒャエル・クンツェ脚本歌詞、2018年月組公演『エリザベート』パンフレット

ど歌い、たとえ辛い人生でもトート、すなわち「死」には頼らないという強い態度を見せつけた。⁵⁰エリザベートの初演は1996年だが、2014年以降2年おきに宝塚では上演されており、毎回凄まじい人気を博している。また、宝塚歌劇には珍しく娘役が演じる「エリザベート」というヒロインの名前がタイトルロールとなりエリザベートの生涯を描くミュージカルという事で、話もヒロインが中心に進んでいく。そして、作中で2番手スターが演じることの多いフランツや4番手スターが演じることの多いルドルフにはソロ曲がないのにも関わらず、この作品の象徴とも言える曲「私だけに」は娘役のソロ曲である。その他にも、他作品に比べてソロでなかったとしてもヒロインの歌唱曲が圧倒的に多い。衣装も全て皇后に相応しい豪華なドレスで、特に1幕最後に着るシシスターと呼ばれる髪飾りと純白のドレスは圧巻である。これらの点からエリザベートは娘役の憧れの役となっており、退団作品に選ぶ娘役も少なくない。

同じオーストリアミュージカルである『I AM FROM AUSTRIA』は2019年の月組公演として上演され、日本初演となった。この作品は、自分の人生を自らの手で切り開くため、オーストリアを飛び出し、アメリカで人気女優となったエマ・カーターが故郷に久しぶりに帰ってきて、自分を見つめ直す物語だ。この作品で特徴的なのが、劇中に出てくる男女カップル3組全てにおいて自立した強い女性が描かれており、男性の方が穏やかでどこか頼りなく描かれている点である。主人公ジョージ・エードラーとエマ・カーターは、エマは自ら道を切り開き、ハリウッドで大成功した大女優なのに対し、ジョージは劇中の「役立たずの御曹司と呼ばれていくとせ過ぎたことか」⁵¹という台詞からもわかるように、キャリアを重んじているとは言い難い有名ホテルの御曹司である。エマが当てもなく夢を掴むためだけにアメリカへ渡ったことは、オーディションの場面でエマが、「靴ひとつでアメリカへ 夢の片道切符手にして オーストリー飛び出した私」⁵²と歌うことから分かる。また、ジョージの両親、ヴォルフガング・エードラーとロミー・エードラーも同じである。エードラーホテルを経営しているのは妻のロミーであり、ヴォルフガングはロミーに言われた通り働いている。それは劇中でジョージに「人生で一番減入ったことってなに」と聞かれて、「母さんから懲戒転職を言われたことかな。デスクから苦情受付係に移動しろってね。」という台詞に表れている。⁵³ホテルのボーイ、フェリックス・モーザーとアンナも、フェリックスはホテルマンとしてコンプライアンスに欠けた行いをしたり、ジョージの車を大破させたりしている中、アンナはいつもそれを見て怒っている。この二人

⁵⁰公演ブルーレイ『エリザベート -愛と死の輪舞-』、宝塚クリエイティブアーツ、2014年

⁵¹公演ブルーレイ『I AM FROM AUSTRIA -故郷は甘き調べ-』、宝塚クリエイティブアーツ、2019年

⁵² 前掲映像

⁵³ 前掲映像

もまた、頼りないおっちょこちょいなフェリックスとしっかりしたアンナという構図で描かれていると言える。

これらのことから、輸入作品においても、ただ男役の三歩後ろを歩くだけではない、自立したヒロイン、女性像を採用したことがわかる。また、宝塚歌劇においては、原作の本やミュージカルを輸入したとしても、宝塚版に改変する場合がある。例えば、前に述べた『エリザベート』もまた、宝塚歌劇版に潤色されている。現地のオーストリアでは死神に「トート」という名前は付いていないが、トップスターに役名が「死」では問題があるということで、黄泉の帝王「トート」という役名が付けられた。また、トップスターに主役を置かなければならない伝統を守るため、エリザベートではなくトートが主役になるようなストーリーが潤色されている。その為、エリザベートと黄泉の帝王とのラブストーリーに重点を置いた宝塚版と、エリザベートの死の絡み合いをハプスブルク帝国崩壊に準えて描いたウィーン版では同じミュージカルでありながら趣旨が異なった作品となっている。同じ日本の東宝版では、宝塚版と同じエリザベートとトートの恋愛を中心に描きつつもエリザベートが主演となっており、カーテンコールでもエリザベートが最後に登場する。つまり、『エリザベート』のように、いくらでも宝塚歌劇版としてヒロイン像、女性像、男性像を書き換えることができたのにも関わらず、自立して、自分の夢をしっかりと追いかけるエマと、心優しいがどこか頼りない御曹司のジョージという二人の関係性や、その他2組の関係性も変えずに描かれた。この点が宝塚歌劇にとってとても大きなことだったのではないだろうか。

5章 結び

入江敏子によると、アメリカで宝塚歌劇団のOG達が『シカゴ』を上演した2016年、現地メディアは「女性のみの歌劇団という特徴を、「ホモセクシュアル」と表現した上で、宝塚を周縁化し、他者として扱った」という。⁵⁴このような日本の外の社会的文化的視点からみた指摘は適切だろうか。宝塚歌劇の女性ファンの大部分は男役、または娘役を同性愛の対象としてみている訳ではないだろう。そしてまた、男役に理想の男性像を投影し、理想の王子様として偶像崇拝している訳でもない。あくまでも女性が演じる男役として、若い女性が退団と言うタイムリミットがある中でそれぞれの男役を段々と、徐々にひたむきに作り上げていくその素の姿を応援し、支え、舞台上でタカラジェンヌとして輝く姿に感動し、格好いい姿や仕草に心踊らせているのではないだろうか。それは、現在のジャニーズ等のアイドルにも見られる jr. や練習生の時から応援して育っていく過程を楽しむ、日本のアイドル文化や、宝塚歌劇が大正時代の女学生文化を背景に創設されたことをかんがみれば、想像に難くない

⁵⁴ 入江敏子「トランスナショナルな視点から見る、宝塚とアメリカ人女性ファン -西洋化された、女性だけの宝塚歌劇団理解とその考察-」、60頁

い。

一方で、観客が娘役に対して抱く感情は少々異なるだろう。娘役は、一人の少女の役者が段々と大人になり、可愛さに加えて美しさに磨きをかけて成長していく姿に自分を重ね、普段彼女達が身につけている物や洋服などを参考に同じ物を買ったり着たりする、一種のファッションアイコンであり、ロールモデルとして見ているのではないだろうか。その為、この直近5年間で上演された作品は今までの作品から時代背景を踏まえて、娘役の扱いや、描かれ方、台詞なども徐々に変化していると考えられる。よって、同じ作品でも初演と再演では、娘役のキャラクターの特徴やセリフ、歌が変化するとともに、トップ娘役の演じる役が変わった例もある。例えば、2017年の月組公演『グランドホテル』で、トップ娘役の愛希れいかはエリザヴェッタ・グルーシンスカヤを演じたが、初演の麻乃佳世はフリーダ・フラムシエンを演じていた。グルーシンスカヤは退団公演ツアー中の落ち目のバレリーナである一方、フラムシエンはハリウッド・セレブのように暮らすことを夢見ている若いフリーのタイプだ。初演では、若く可愛らしく無邪気でどこか頼りない女性こそヒロインとされた為にフラムシエンがヒロインだったのだろう。しかし、10年以上の時を経て現在の観客には、今まで自分の人生の全てをバレリーナとしてのキャリアにかけてきて、そのキャリアの集大成である退団公演に臨むグルーシンスカヤのヒロイン像が受け入れられるたことがわかる。

また、2020年～2021年には、新たに娘役がタイトルロールとなる『アナスタシア』が宙組で初演された。こうして、トップ娘役に求められる役割もただ男役の男らしさを際立たせる舞台の華ではなく、一人で主演できる程の華と実力を兼ね備えたプリマドンナの娘役が再び求められているのではないだろうか。それはすなわち、娘役の存在感が大きくなり、娘役担う役割が増えるという事である。存在感が増した娘役の魅力をもた再び多くの人気が気づき、娘役人気上昇するだろう。その証拠に、2016年には、当時月組トップ娘役だった愛希れいかと宙組トップ娘役だった実咲凜音(在団2009-2017)が2007年の彩乃かなみ(在団1997-2008)、白羽ゆり(在団1998-2009)、遠野あすか(在団1998-2009)以来9年ぶりにフォトブックを発売した。また2020年には各組トップ娘役である、華優希、舞空瞳、星風まどか(在団2014-)、真彩希帆(在団2012-)、美園さくら(在団2013-)がヘアアクセサリーブランドComplex Bizとコラボしてヘアクリップを発売した。また、宝塚GRAPH9月号には、それぞれのトップ娘役がそのヘアクリップを使ったヘアアレンジを紹介したページが掲載された。個人のグッズを出しているのは2020年現在トップスターのみであり、異例のことだった。今後、トップ娘役がグッズを出すことも当たり前になるかもしれない。

参考文献

- 伊井春樹『小林一三は宝塚少女歌劇にどのような夢を託したのか』ミネルヴァ書房、2017年
- 入江敏子「トランスナショナルな視点から見る、宝塚とアメリカ人女性ファン -西洋化された、女性だけの宝塚歌劇団理解とその考察-」『摂大人文学』摂南大学外国語学部「摂大人文学」編集委員会、2018年
- 植田景子『Can you Dream? -夢を生きる-』ソフトバンククリエイティブ、2010年
- 植田紳爾、川崎賢子『宝塚百年を越えて 植田紳爾に聞く』国書刊行会、2014年
- 江藤茂博『宝塚歌劇団スタディーズ:舞台を100倍楽しむ知的な15講座』戎光祥出版、2007年
- 宝塚歌劇団オフィシャルウェブサイト、<https://kageki.hankyu.co.jp>、参照2020年5月12日
- 『Le CINQ vol.179』宝塚クリエイティブアーツ、2016年12月1日
- 『Le CINQ vol.209』宝塚クリエイティブアーツ、2020年8月7日
- 『三井住友 visa カードミュージカル エリザベート 2018年月組公演パンフレット』タカラヅカクリエイティブアーツ、2018年
- 宝塚歌劇団理事長 小林公一『宝塚歌劇100年史 虹の橋 渡り続けて〈舞台編〉』阪急コミュニケーションズ、2014年
- 橘涼香、2017年7月2日「平成のゴールデンコンビ早霧せいな・咲妃みゆ退団公演 宝塚雪組『幕末太陽傳』『Dramatic “S”!』上演中!」、宝塚ジャーナル<http://takarazuka-j.blog.jp>、参照2020年12月28日
- 津金澤敏廣、田畑きよ子、名取千里『タカラヅカという夢-1914-2014-』青弓社、2014年
- 中本千晶『なぜ宝塚歌劇の男役はカッコイイのか-観客を魅了する「男役」はこうして創られる-』東京堂出版、2011年
- 中本千晶『タカラヅカの解剖図鑑』エクスマレッジ、2019年
- 漫画でわかるLGBTQ +/パレットトーク「フェミニズムの4つの波って何?-フェミニズム運動の歴史を漫画で復習してみた-」、note、<https://note.com/info/n/n9d68679102b7>、参照2021年1月2日
- 森きいこ、「宝塚歌劇団・演出家 上田久美子の世界/ホーム・シアトリカル・ホーム~自宅カンゲキ1-2-3 [vol.32]〈宝塚編〉」、エンタメ特化型情報メディア スパイス、<https://spice.eplus.jp>、参照2021年1月2日
- 宮本直美『宝塚ファンの社会学 -スターは劇場の外で作られる-』青弓者、2011年
- 公演ブルーレイ『エリザベート -愛と死の輪舞-』宝塚クリエイティブアーツ、2014年
- 公演ブルーレイ『雪華抄/金色の砂漠』宝塚クリエイティブアーツ、2017年
- 公演ブルーレイ『私立探偵ケイレブ・ハント/ Greatest HITS!』宝塚クリエイティブアーツ、2016年

公演ブルーレイ『メランコリック・ジゴロ -危ない相続人-?/EXCITER!!2018』宝塚クリエイティブアーツ、2018年

公演ブルーレイ『I AM FROM AUSTRIA -故郷は甘き調べ-』宝塚クリエイティブアーツ、2019年